

私たちFFGは
「地域に真のゆたかさ」を実現するため、
様々な分野での地方創生に取り組んでいます。
地域と人と企業を結ぶFFGならではの視点で、
地域の魅力とそれを支える人々のストーリーを
紹介していきます。

地域と銀行、つながるバトン。

昨日から今日、今日から明日。

私たちは、バトンのように日々を送る。

そこに、誰かの「こうしたい!」が加われば。

日々は生き生きと色彩を持ち始める。

地域を変える活力も、初めは小さな願いから。

地域と銀行がバトンで繋がったとき、新しい物語が、始まります。



八女すだれに久留米かすり… 伝統工芸×ツーリズムで 新たな展開を生み出すストーリー。

鹿田産業×坂田織物×野村織物×福岡銀行(ふくおかフィナンシャルグループ)

筑後エリアの中央、久留米市と八女市の間に位置する広川町は、イチゴやブドウなどフルーツの産地であると同時に、久留米かすりの織元も多く、伝統工芸との関わりが深い町です。

その広川町で1912年(大正元年)の創業以来、「八女すだれ」をつくり続けている株式会社鹿田産業は、今や、八女すだれを一貫製作できる唯一の事業者。同社が扱う八女すだれは屋外ではなく室内で使用する調度品で、地元産の上質な竹を使って一つひとつ手作業で仕上げます。そのため価格も高くなってしまう、カーテン類などの競合に勝って消費者に選んでもらうためには、八女すだれならではの価値を認めてもらわなければなりません。

7代目の鹿田和正社長は、2010年頃から東京に営業所を開設。商業施設にも広く自社商品を使ってもらおうと、地道な営業のかたわら、自社ブランド確立のために奔走。建築家の隈研吾氏の事務所を訪ねたり、フランスやイタリアの展示会にも出展したりと、建築・設計現場への売り込みに力を注ぎました。百貨店を通じたB to C事業からB to Bへの転換です。そして2023年、広川町の本社横に、すだれをはじめ、ラタン(籐)などサステナブルなインテリアを展示・販売する「SHIKADA SHITSURAI(鹿田室礼)ショールーム」を

オープン。設計を手がけた隈研吾氏デザインのオリジナルラタン家具も発表し、伝統工芸や天然素材の魅力を体感できる贅沢な空間が広川町に誕生しました。

その際メインバンクだった福岡銀行広川支店を通じてこの新ショールームのブランドの知名度向上と新たなファン獲得を目的に観光庁の地域観光新発見事業を活用した「伝統工芸ギャラリーツアー」を実施することに。また、せっかく来てもらうなら町の魅力も紹介したいと、類似事業を支援した経験を持つ福岡銀行地域共創部、FFGグループ会社の株式会社TAPとタッグを組み、ツアーの中身にもこだわりました。

加えて、今後の展開を意識して、できる限りデザインや建築に接点のある方々にお声掛けした結果、伝統工芸やインテリアに知見のある13名の著名人が、鹿田産業のすだれ工場とショールーム、久留米かすり工房などを訪れ、広川町の多彩な伝統工芸との出会いを記憶に刻んでくれました。

「業界では非常に有名な専門家の方々が訪問してくれるという贅沢な企画が実現できたのも、福岡銀行やグループ会社の皆さまのサポートのおかげ。新たな取引にもつながりつつあります。また、煩雑な補助金申請書類作成の相談にも乗ってもらえたの

で、本当に助かりました」と鹿田社長にもご満足いただけました。

また、このツアーに組み込んだ久留米かすりの2軒の織元の方にとっても、具体的なアドバイスや自社製品の認知拡大など、それぞれ効果を感じてもらったことができたようです。

鹿田産業の課題を出発点に、同じ地域の伝統工芸を、産業ツアーという横軸で繋いだ今回の事業。商品造成や募集は旅行会社などの協力も得つつ、顧客のニーズに寄り添った内容に仕立てることができました。

また、観光庁からの補助金事業を活用した事例だったため、クリアすべき条件や実務的な作業、また観光誘客面における効果的なマッチングなど、自治体や観光協会とも情報交換や連携を図りつつサポートを行いました。地方創生に直結する伝統工芸や地場産業への支援として、観光誘客や販路拡大、ビジネスマッチングといった面で、これからもさまざまな自治体や地域事業者と一緒に、地域活性化に取り組んでまいります。

FFGは地域が抱える課題解決や地域経済の活性化に取り組んでいます

地方創生に関するお悩みをご相談ください。

- 観光振興
- 産業振興
- まちづくり
- 産学官金連携
- 地域資源活用
- 情報発信 など



写真：広川支店

お問い合わせ

ふくおかフィナンシャルグループ
営業統括部 地方創生推進グループ
TEL: (092) 723-2254
MAIL: bankbaton0101@fukuoka-fg.com

記事の全編は
こちらから

本記事は、bank batonに掲載された内容のダイジェスト版です。

記事の全編は以下のWEBページにてご覧いただけます。



<https://www.fukuoka-fg.com/bankbaton/story/14/>

私たちFFGは
「地域に真のゆたかさ」を実現するため、
様々な分野での地方創生に取り組んでいます。
地域と人と企業を結ぶFFGならではの視点で、
地域の魅力とそれを支える人々のストーリーを
紹介していきます。

地域と銀行、つながるバトン。

昨日から今日、今日から明日。

私たちは、バトンのように日々を送る。

そこに、誰かの「こうしたい!」が加われば。

日々は生き生きと色彩を持ち始める。

地域を変える活力も、初めは小さな願いから。

地域と銀行がバトンで繋がったとき、新しい物語が、始まります。



福岡初モルトウイスキー蒸溜所から 世界に発信、朝倉の水のストーリー。

篠崎×あさくら観光協会×福岡銀行(ふくおかフィナンシャルグループ)



意外かもしれませんが、福岡県では多種多様な
お酒がつくられています。日本酒や焼酎はもちろん、
地元産の食材を使ったリキュール、クラフトビール、
ワイン…、そして2021年からはモルトウイス
キーが加わりました。

手掛けたのは、江戸時代に創業し200年以上
にわたり朝倉で酒づくりを続けてきた、株式会社
篠崎^{しのさき}。朝倉といえば、九州最大の一級河川、筑後川
の下流に位置し、温泉や湧き水も豊富な「水のま
ち」で、酒づくりとの相性も良い土地です。そこに新
たに「新道蒸溜所^{しんどうじょうりゅうじょ}」という施設を展開し、ウイス
キーづくりに着手。事業開始から4年を経た今年
6月、シングルモルトウイスキー第1号「SHINDO
EXPERIMENTAL 01」をリリースしました。日本
洋酒酒造組合が定める基準をクリアした正真正銘
のジャパニーズウイスキーです。

蒸溜所に携わるのは篠崎倫明社長を含めて8
人。日本のウイスキー界では非常に有名な第一人者
に指導を仰ぎながら、8人で試行錯誤しながらつく
り上げました。

「先代社長も、甘酒や長期樽熟成の焼酎といっ
た新展開に挑戦しながら、自社でウイスキーをつ
くってみたいという思いをずっと抱いていたので、
この蒸溜所は篠崎の長年の夢が形になったもの

です」(篠崎社長)

今も日本酒、甘酒、焼酎などをつくっている本社は比良松という地域にあり、約30年前まで周辺地域には8軒ほどの造り酒屋が軒を並べていたそうです。しかし時代の流れとともに減少。さらに2017年には、九州北部豪雨で酒蔵も近隣の家々も被災してしまいます。

「酒蔵は川のすぐそばにあり完全に浸水。被災直後はご近所の泥のかき出しなどを手伝っていました。するとどのお宅にも当社の酒瓶がずらり…。さらに、酒造りができなくなった篠崎の酒の復活を望む声もたくさんいただいて、感謝でいっぱいになりました」と、篠崎社長。この経験もあって、次に何かやる時も朝倉でと心に決めていたといいます。

こうして誕生した新道蒸溜所のモルトウイスキーは、「同社の理念である「独創性の追求」という言葉の通り、他にはない味に。ラクトンという香気成分を効かせて樽熟成前のニューメイク自体を甘めにつくり、たとえ短期熟成下でも楽しめる。そんな唯一無二のウイスキーです。

「韓国のウイスキーインフルエンサーの動画を見て個人で買いに来られたり、この蒸溜所は行くべきだと4〜5人からおすめされたという外国人が訪れてくれたりする」と、すでに国境を超えて注目

を集めている朝倉メイドのウイスキー。このムーブメントを、さらに地域や業界の発展につなげることができればと篠崎社長自身、大きな期待を抱きながら次なるステージを目指しています。

福岡銀行としては、甘木支店が最初の相談窓口となりながら、ホームページのリニューアルやコロナ禍の補助金申請、さらに県内初のウイスキー蒸溜所見学や試飲をコンテンツ化するなど、さまざまな部署やグループ会社の力を駆使して、篠崎の大規模な新事業を支援してきました。

さらに、観光庁の「地域観光新発見事業」を活用するため、あさくら観光協会や旅行会社とも連携。モニターツアーを実施し、新スポットである新道蒸溜所に、古くからの利水施設である三連水車や、和紙の手漉き体験などを組み合わせ、水のまわしいモデルコースを提案しました。来年は朝倉市政20周年の節目。ジャパニーズウイスキーという新たな魅力が増えたことで、さらに多くのお客さまが国内外から「コト消費」に訪れそうです。

FFGは地域が抱える課題解決や 地域経済の活性化に取り組んでいます

地方創生に関するお悩みをご相談ください。

- 観光振興
- 産業振興
- まちづくり
- 産学官金連携
- 地域資源活用
- 情報発信 など



写真：甘木支店

お問い合わせ

ふくおかフィナンシャルグループ
営業統括部 地方創生推進グループ
TEL: (092) 723-2254
MAIL: bankbaton0101@fukuoka-fg.com

記事の全編は
こちらから

本記事は、bank batonに
掲載された内容のダイ
ジェスト版です。

記事の全編は以下のWEB
ページにてご覧いただけ
ます。



[https://www.fukuoka-fg.com/
bankbaton/story/15/](https://www.fukuoka-fg.com/bankbaton/story/15/)